



火の柱

Friends of Jesus 2021.12 第729号

イエスの友五綱領

- ①イエスにありて敬虔なること
- ②負しき者の友となりて労働を愛すること
- ③世界平和のため努力すること
- ④純潔なる生活を尊ぶこと
- ⑤社会奉仕を旨とすること

イエスの友会は、上の五綱領を、生き方の基盤としているキリスト者と賛同者の群れです。(結成1921年10月5日)

特集『新しいミレニアムに向かって』 1P 鈴木武仁「新しいミレニアムに向かって」 2P 寺尾貞亮「ブラジル移民船上のキリスト」 3P「大阪支部再興」脇田眞一 4P「春期聖修会の開催」高島史弘 「会計報告」小野島正彰 「会員報告」高島史弘

新しいミレニアム

(千年紀)に向かって

イエスの友会会長 鈴木武仁



二〇二一年はイエスの友会創立百年を迎えたが、これからの一千年紀をどう過ごすべきか。二〇〇〇年に

ミレニアム祭を祝ったのであるが平和を期待していたのが、アメリカの同時多発テロでその夢も無残にも打ち砕かれた(二〇〇一年九月)。民族・宗教対立が噴出するようになった。これからの課題は見せかけの平和でなく真の平和が求められることではないか。神の国の現実を引き降ろす働きこそ平和をもたらすことであるが、十字架の先にある復活の希望をもって生きる信仰が現実的な課題に対応できるものではないか。民族・宗教の対立は歴史的必然であるが、これを克服しなければ平和の到来は困難であろう。

殊にイスラム教との和解がなければ平和の実現は難しい。イスラム教の聖典コーランが天使ガブリエルを通して預言者ムハンマド(五七〇〜六三二年)がアラビア語で受けた神の啓示だと信じているのがイスラム教徒である。ところが今ではキリスト教の三十年戦争のように、同じイスラム教派間で殺戮

しあう関係へと暗転している。国際テロ組織アルカイダや、イスラム過激派組織「イスラム国」(IS)など、コーランを啓示ゆえに絶対と信じ排他的偏狭で硬直的な思考形式をとっているのです。ますます厄介である。

超教派運動の展開

キリスト教界もそうだがイスラム教にも教派分裂があり平和と言う理念を理想に持つイスラム共同体とは裏腹に、血で血を洗う教派闘争が繰り広げられている。ハリジー派は、ムアーウィア派と対立してきた。彼らはイスラム教の教えを守らず罪を犯した者を不信仰者として断定した。これを「タクフィール」と言うが、この思想を継承しているのがアルカイダやイスラム国、エジプトのムスリム同胞団。ムスリム同胞団は「全世界イスラム化」をめざして活動している。パレスチナのガザ地区を支配する「ハマス」は同胞団を母体にパレスチナで結成されたテロ組織である。このようにイスラム教には様々な思考や思想の自由がある。これは長所であるが、相手を敵とし異端と決めつけることから対立闘争を生み出す短所でもあった。スンニ派(サウジアラビア)とスンニ派(イラン)との戦いは、イラン・イラク戦争を起こしている。

寛容な精神の涵養

これからのミレニアムにおいてイスラム教の聖典研究においても、キリスト教界のような聖書批評学、様式的的研究が盛んになり聖典の絶対性から解放され、客観的に物事を見つめ判断する方向に変化して

いくであろう。それは自分たちの信仰を絶対化して他者の信仰を裁くことを見直し、人権を尊重し、独善と偏見をもって排他的に生きるのを転換し、寛容な精神を生み出していくであろう。確かにイスラム教の聖典研究が回避されてきたためにこれまで無傷で読まれ、語り続けられたが、それは頑迷固陋な信仰を残留し、暴力の嵐を産んでいる原因になっている。それゆえに超教派を生み出す寛大さを神の行政にあることを学ぶ必要がある。他宗教や他教派との共存は、非日常的なコロナ禍の介入によって世界は自分たちの日常がいに儂いものかを知らしめ、いかにコロナと共存するかの知恵を模索するに至っているのも神の恵みである。

再臨のイエスへの期待

イスラム教にもイエスの再臨を認める思想がある(コーラン四三章六二節)。「げに彼(イエス)は、(復活の)時の象徴(しるし)なり。さればお前たち、これについて断じて疑心を抱くなかれ。而して我に従え。こは正しき道なり」。その雛型としての聖霊の到来、内住の主の復活の命の霊である聖霊を再臨信仰への連結としてとらえることからイスラム教徒の繋がりを見る。そもそもイスラム教でイエスは十字架にかけられることなどありえないとして否定している。にもかかわらず再来信仰があるのも事実である。こうして現世よりも来世を強調する嫌いがなくもない。

主の十字架信仰 にもかくあらず、聖書によれば主の十字架は永遠から永遠に存在する。ヨハネ黙示録十三章八節では「天地創造の時から、ほふられた小羊」とあるが、主の十字架における小羊としての罪の贖いの供えられたことは、永遠の初めにおいて神の経綸の中にあつたことであり、「わたしは生み出されていた。深淵も水のみなきる源も、まだ存在しないと」（箴言八章二四節）とあるが、この「生み出されていた」は、原典では「神、我を屠りたまえり」と訳されるといふ見方もある。このような幅を考えるとイスラム教とのすり合わせには慎重に対応することが必要であろう。また彼らの来世観（天国）に入るための条件と救いについては、キリスト教の「王国」

（千年王国）に入るための条件を理解し、それが救いによる新天地に入ることとの違いが分かれば対話も楽しくなるであろう。もちろんイスラム教には頑迷で排他的な教理もあるが、それを嫌う人たちも多くいるし、無神論の拡大を生んでもいるほどである。

最後に、イスラム教を初めとする諸宗教、諸教派とどう向き合うかである。イスラム教は間もなくキリスト教徒人口を上回り、世界一の信徒数になり、各方面で影響力を高めることは言及するまでもない。彼らの問題は、信仰、家庭、神との各自の繋がりに熱心過ぎて他宗教への改宗を禁じ信仰の自由を妨害したり、女性の権利を尊重しないこと、暴力を肯定することなどが問

題である。賀川豊彦先生は、神の啓示を受け世界連邦構想を展開した。これを通して宗教の対話が持たれ軍縮が実現するような道を提示した。新しいミニニアムの向かう道はA I兵器が、自動操縦自動車に組み込まれる時代の「平和」の現実化である。

ブラジル移民船上の

キリスト

寺尾 貞亮（てらおていすけ）
ブラジル アリアンサ 在住
（氏の許可を得て、寺尾氏著『ブラジル移民船上のキリスト』から抜粋させていただきました。）



1960年10月30日の事です、私は単身移民として、移住船『ぶらじる丸』の乗客となりました。千名余りの南米移住者が乗船しており、船は満員でした。横浜港から出航し、荒れ狂った太平洋を15日間かけて横断し、ロスアンゼルス港に着きました。

ロスアンゼルスから一人の方が乗船されました。「人生は出会いによって変わる」と言われますが、私はこの方との出会いによって、私の人生が暗闇から希望へと一変することになります。

聖書箇所にありますように、イエスがゲラサ人の地に訪れたとき、突然、悪霊にとりつかれている男がイエスの前に現れ

ました。さして面識がないのに、「いと高き神の子イエス」と大声で喚びました。この男が「レギオン」と名乗る悪霊どもを追い出されました。この男はただちに正気になって、弟子として「お供したい」と願いました。しかし、イエスは、「自分の家に帰らなさい。そして、神があなたになさったことをことごとく話して聞かせなさい」と命じられたのです。神の人イエスは罪人を救われます。

さて、ロスアンゼルスから乗船されたその方とは、北米JEMS宣教会連盟から遣わされた豊留真澄師でした。ゲラサで起こった出来事は、罪だらけのこの私と、豊留師との出会いに再現されました。悪霊つきだった男と、私のこれまでの人生はよく似ていたのです。

ピアニストであった父（本名 寺尾辰雄・芸名 新太郎）は、軍令の徴用の犠牲となりました。残された家族は長崎で被爆しました。戦後の日本の秩序は乱れ、闇取引が横行していました。私はその環境の中でいじめに遭い不登校の幼年、少年時代を過ごしました。

二十歳になった私はやくざの親分に誘われ、漁船相手に魚の横流しの手先となり、水上警察から捕縛される寸前まで追い詰められました。そのままでは、前科者に堕ち込む危険な状況でした。しかし、天の神は「真の光」です。

神の光を知り得るのは、人間と天使だけと言われています。

ロスアンゼルス出航後の船上にて、私には天来の光をいただいた素晴らしい内住のキリストと出会ったのです。出会いは、人の人生を変えます。悪霊つきの男が

イエス・キリストとの出会いによって救われたように、私は最も暗い境遇から船上において救われました。

豊留師は、まさしく聖霊の実を持っておられ、それが私を惹きつけました。

パナマ運河、カラカス、ドミニカ等の島々を巡り、サントス港までの長旅でした。太陽が沈み、夜空に南十字星ときらめく幾万の星々が光り輝くと、「寺尾さん、見なさい、この広大な海を、この夜空を見なさい。この大宇宙を創られたのは、天の主ですよ」と、夜空を仰いで師は教えます。こうして30日間の師との真実な愛の交わりと、神の真理の言葉によって、罪深く汚れた私の心は洗われていきました。

やがてブラジル上陸の時には、私は天の主から愛と平安と喜びをいただき、新たに始まる生活に希望がいっぱいでした。

ブラジルという国

「我々が偵察して来た土地は、とてもすばらしい土地だった。」（民数記14章7節）
1500年にブラジルを発見した提督カブラルも、同じように報告したでしょう。

1960年12月15日、私はブラジルのリオ・グランデ・ド・スール州へ農業労働者として入植しました。しかし、大量の農薬によって健康を害し、3年後、農場から逃げ出しました。以後、サンタカタリーナ州、パラナ州、リオ・デ・ジャネイロ州の各地を転々とした後、サンパウロ市内にあるメリヤス工場の機械手として働く傍ら夜学でポルトガル語を学び始めました。

ところが大腸炎に罹り、極度に衰弱し、死線をさまざつた私は、福音日本人教会古倉庫の祈りの家に身を寄せていただき、

1966年1月15日、主の憐れみにより、竹村之虎師のもと、受洗いたしました。病が癒されて3年後、私は自給伝道者としてのビジョンが主から与えられ、サンパウロ市内に古家具店を出店しました。その頃ブラジルに来られた大江寛人師（中田重治師の孫）から伝道者としての訓練を受け、1968年より1971年まで導かれました。（1968年以降、古倉庫の折りの家は新都市計画により撤去命令を受けました。）

1969年5月10日、30歳の時、サンパウロ州プレジデント・プルデンテ市のホーリネス教会で奉仕していた日系二世の五島照子と結婚しました。当時27歳、小学校教師クリスチャン家庭の四女、聖書の言葉に養育され祈り深く潔癖で、生涯夫の私と家庭と「家の教会」等を支えてくれた女性でした。

主の恵みにより創業させていただいた古家具業は順調で、早朝に社内礼拝を守り、二つの支店を出店するまでになり、従業員15名までに発展させていただきました。

しかし、私自身の富と神に兼ね仕える弱さや、世の誘惑に惑わされ、同時にブラジルの大インフレの波に襲われて店は倒産、40歳で全財産を失いました。苦境の中で私はヨブの信仰に励まされ、また結婚祝いにいただいたミレーの「晩鐘」の絵に、「これからの人生はこれだけなければならぬ」とのインスピレーションを受け、主にすべての明け渡しを決意しました。

再出発

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門を

たたきなさい、そうすれば、開かれる。」（マタイ7・7）

1981年、日系移住地コロンニア・ピニヤール（サンパウロ市より175キロ）で福音伝道を目的に、日本語教師として赴任し3年半働きました。そしてその傍ら、蜂蜜採取のための養蜂を始めました。

1985年、ミツバチの巣の中に作られるプロポリス、天然の抗生物質の存在を知り、不健康な自分自身に試用して、その効力のすばらしさを発見致しました。

翌年、プロポリス事業と「家の教会」のビジョンを鮮明に示され、25キロメートル離れたピラール・ド・スール市に移転しました。家族は私たち夫婦と二男二女の計6人でした。家の教会には、教家族が集い、希望に燃えました。

1988年、ブラジルに渡って28年ぶりに祖国日本を訪れる恵みに与り、主の証しとプロポリスのお土産を持って親族との再会に涙しました。

事業は祝され、東京の会社との取引も始まりました。1990年、世界一高品質とされる「茶緑色系プロポリス」をミナス高原地域にて発見し、日本の養蜂新聞に発表させていただきました。その間、市内に土地を購入し、礼拝ができる住宅と公認のプロポリス工場を建設。1993年には、16万1千平方メートルの土地を購入し、本格的な第二工場と聖書キャンプが可能な場所及び結婚式も出来る施設を建設致しました。その後9か所に農地が与えられ、牧畜・魚の養殖業、無農薬栽培と、立体農業のビジョンが示されました。

その後、1997年7月、ブラジル・アライアンス・キリスト宣教団の大江寛人

師同席のもと、伝道師としての按手を受けました。2003年3月21日には、日本J.T.J.宣教神学校の通信制により、神学部牧師志願科を卒業させていただきました。私の聖書の学びにおいては「いのちのことは社発行の『新聖書注解』及び『新聖書辞典』を使い、霊的に恵まれました。

私はこれまでに、キリスト者でありながらも信仰的にも経済的にも、幾度も多くの失敗をしました。家の教会では、分裂が起り、苦境に立たされたこともありました。

ブラジルは、建国520年の今も国は政治経済共に安定していません。特に経済の変動が激しく、百年の歴史がある日系の銀行さえも倒産したほどです。

私たちも2003年の不況の赤字を補うために、これまでに二つの不動産を売却しました。以前倒産した時には社員にも家族にも従業員にも悲惨な目にあわせてしまったので、その失敗を繰り返さないように、会社の資本を三分に分けることにしました。現在は、資本の三分の一で運営し、三分の一を安定外貨に換え、三分の一は不動産にして運営しております。

それは高利貸しのブラジルの金融機関に頼らないためです。

40歳で倒産するまでは、金銭はサタンのものと考えて、儲けることに罪悪感を持つていました。しかし、すべてのタラント（霊性・健康・経済・頭脳・時間・家族・隣人）は主からの預かりものです。（マタイ25章14〜30節）また創世記のヨセフの知恵からも学ばせていただきました。全ては、主のものであり、自分自身は管理者であって、主に忠実に従うのみです。

私のキリスト者としての53年の歩みは、ブラジルと日本（訪日34回）両方にあります。私の魂を導いてくださった豊留真澄師、竹村之虎師、大江寛人師、田村耕治師、山崎長文師、佐藤柱輔師等、そして日本において主イエスに忠実な多くの霊的指導者達からの恵みを頂いております。マタイによる福音書4章4節に「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」とあります。聖書の教えに基づくこの証しの小冊子は、ピラール・ド・スール市の「家の教会」で聖日の礼拝にて、月に一度説教させていただいたものの中から約50を選び、書き言葉に改めたものです。（2020年1月13日、ピラール・ド・スールにて）

大阪地区での

「イエスの友会」の再興

日本基督教団東大阪教会

牧師 脇田 眞一



「イエスの友五綱領」を高く掲げて邁進して行けることを心から感謝申し上げます。

大阪地区では四十年〜五十年位前イエスの友会に参加して活動する方が沢山いたが、現在ではこのような先輩方の活動を知っている方は、私の知る限りでは数名に過ぎない。今年七月に折角、大阪で開かれたイエスの友会・第九六回・一〇〇周年記念・夏期聖修会に参加された大阪地区の方は僅か4名であった。この時、本部

春期聖修会の開催について

事務局 高島史弘

の高島書記さんから私にイエスの友会大阪支部を作ったらどうかとの話があったが、大阪地区での過去からの流れを私はよく知らないで、直にはお答えできなかった。その日の会議の終了頃、大阪地区の山崎睦子師から大阪地区にイエスの友会の支部を作りたいので、その時には皆様のご協力をお願いしたいとの発言があった。その後、十月十八日浜松市でイエスの友会中央委員会があり、その席で鈴木武仁会長から脇田眞一師に大阪支部長になつてもらつてはどうかとの提案があり、全員が賛成した。そして、来年一月に鈴木会長の代理として高島書記が大阪クリスチャンセンターへ行き、就任式を行うことが決定された。なお、山崎睦子師からも長谷川勝義副会長に大阪支部を作つて欲しいとの話が前記第九回イエスの友会の開催前になされていたと、高島書記から私は一〇月一八日浜松市での中央委員会の後日に聞いた。

さて、私は高校一年(昭和二六年、一九五一年)の時、賀川豊彦先生の講演を聞く機会があり、先生に初めて出会った。先生は原子力エネルギー等の物理学の話その他を話された。また、私は昭和三五年に工学部電子工学科を卒業して大阪にある三洋電機に就職し、昭和三九年頃、大川拓兄と増江姉夫妻と知り合い、早天祈禱会や同じ四條畷教会員として交わっていた。この大川夫妻は賀川先生と親密にしており、賀川先生が大阪へ来られた時には必ず大川宅で泊まっていたということであり、私はこの夫妻から賀川先生の働きについてよく話を聞いた。

今年の夏期聖修会での中央委員会の話し合いの中で、例年の2月の中央委員会を、春期修養会という形にして、一般の会員の方も集まれるような集会にしようとのご提案がありました。それを受けて、常任中央委員会での会議を経て、2月に春期修養会を開催することになりましたので、ご案内させていただきます。

第1回 イエスの友会 春期修養会プログラム

全体テーマ「貧しき者の友となり労働を愛すること」

日 時… 2022年2月21日(月) 午後2時半～22日(火) 午後3時
場 所… 湯河原 千代田荘(神奈川県足柄下郡湯河原町宮上637 TEL0465・63・1153)

交通…JR湯河原駅から奥湯河原行、不動滝行または元箱根行バス約15分
源泉郷 下車 徒歩1分

駐車場は12台あり。お車の場合は、参加申込み時にその旨、お伝えください。参加費…9000円(1泊3食付)…なお食事なしも参加費は同じとする

申込み締切… 2022年2月7日(月) 同封の振込用紙で申込み 期日厳守

2022年2月21日(月) 午後2時半～3時 受付

3時～3時40分 開会礼拝 奨励 吉本真理牧師

4時～5時半 講演 『賀川ハルについて』富澤康子氏

6時～7時 夕食・交流
7時～8時半 中央委員会1

2月22日(火)

午前7時～8時 早天祈禱会

8時～9時 奨励 リリアン宣教師 朝食

9時半～10時 中央委員会2(まとめ)

10時～12時 証し会(遠藤正一氏・遠藤良太氏他) 教会にて昼食

12時～ 湯河原教会へ移動

13時半～14時半 祈禱会 証 金子信一牧師

14時半～15時 閉会礼拝 奨励 及川健治 伝道師

【二〇二二年度会計報告】

二〇二二年九月以降二〇二二年十二月迄の状況

◎会費(二千円)六名(米田昭三郎、吉岡恵、仲里朝治、西内芳子、町頭良行、網谷玲子)

◎感謝献金五名(仲里朝治、(株)フオーグレイス、町頭良行、米田昭三郎、小野島みき子)

◎クリスマス献金一名(網谷玲子、小野島正彰)

◎購読料二名(李善恵、米田昭三郎)

◎登録料一名(吉岡恵、米田昭三郎)

◎百周年記念特別献金八名(小林光、阿部志郎、坂田ミチ子、佐治和子、田島章義、李善恵、鈴木貞男、網谷玲子)

◆会費納入と献金をお願い
尊い献金と会費等でイエスの友会の活動をお支え下さり、イエス様にあつて感謝いたします。

▽たくさんの方から会費や献金をいただきました。感謝します。引き続き、各事業活動の費用のための会費や献金

をお願いいたします。会費、献金、維持費、購読料等の振込先は、次のとおりです。

▼郵便振替口座 「〇〇一七〇〇一七・四九五八六」 加入者名「イエスの友会本部」

いつもご支援を心から感謝申し上げます。(会計担当 小野島正彰)

【会員情報】
◎ 本の出版について 以下のような会員の本が出版されています。ぜひ、ご購読ください。

隣人となる『豊橋サマリヤ会 20年の信仰と祈り』高島史弘 ライフストーリー企画(オンデマンド出版)

『フジリ移民船上のキリスト』寺尾貞亮著 いのちのことば社

平和の夢は明日につなぐ『バトン』太田敬雄著 ネット・パブリッシンググオーサーズプレス出版 販売 Amazon

◎会員の遠藤正一さんの息子さんの遠藤良太さんが、衆議院議員に当選されました。おめでとございます。神の祝福をお祈りします。

◎本部事務局の住所が変わりました。新住所は次の通りです。441-8016 愛知県豊橋市弥生町西豊和4-7 高島史弘(イエスの友会 事務局局長 携帯 090-6949-5160)

「火の柱」第26号

発行人 鈴木武仁

発行所 イエスの友会本部

発行日 2021年12月25日

本部事務局

441-8016 愛知県豊橋市弥生町西豊和4-7 高島史弘(イエスの友会 事務局局長) 携帯 090-6949-5160

メール takashima.m33@japan.email.ne.jp

郵便振込追加者名 イエスの友会本部

口座番号 0017074010000

火の柱編集 長谷川勝義
火の柱原稿メール先 bmvpc58@xi.commu.fajp
〒440-0026 愛知県豊橋市多米西町2-20
12 電話・FAX 053261-4822